

腕に羽をつけて、私は自由に空を飛ぶ。世界中の料理から「今日は何を食べよう」と迷う。スターウォーズの砂漠で空を見上げ、音楽に合わせてミャクミャクが踊る。これは夢ではなく、今大阪で実際に体験できる「大阪関西万博」の景色だ。

私はありがたいことに大阪市から「夏パス」をもらい、この夏、何度か万博に行っている。受験生でなければ毎日でも通いたいくらい魅力的で、まるで世界旅行や未来にタイムスリップしたような感覚を味わえる場所だ。でも最初は知らなかった。このパスも、大きな会場も、世界中から人を迎える準備も、その多くが、「税金」で支えられていることを。

まさか、自分がジェラートを食べているこの場所すべてに税金が関わっているなんて思いもしなかった。調べてみると、会場の整備や警備、救護体制など、私たちが安全で快適に楽しむための裏側に、国や自治体の税金が使われていた。未来の展示やお祭りのように見える万博も、実は「社会全体でつくっているイベント」だったのだ。

今の日本は地震や豪雨などの自然災害が多く、高齢者の支援や子育て支援など、税金が必要なことがたくさんある。だから「万博よりもっと大切なことにお金を使うべきじゃないか？」と言う人がいるのもわかる。でも私は思う。今の時代だからこそ、夢をあきらめずに未来に希望が持てる場所が必要だと。私にとって、それが万博だった。

いろんな国の言葉が飛び交う中で、私は気付いた。言葉が通じなくても、笑顔と「ありがとう」は世界中で伝わるということに。いろんな国や地域の人と交流するだけで「来てよかった」と思えた。それはただのイベントではなく、国と国、人と人との間に「縁」を繋ぐ場所のように感じた。

そしてその縁を繋いでいるのが税金だと知った時、私は初めて「税金ってかっこいい！」と思った。学校の授業で「税はみんなで支え合う仕組み」と習った。でもそれだけではない。みんなの力で、こんなに大きな未来をつくることができている。

そんなことを感じながら、私は母とミャクミャクのぬいぐるみに言った。

「このジェラート代、将来は私が払うな♪」「楽しみにしてる♪」と母は笑って返してくれた。

税金は未来への前売りチケット。今、税金を払ってくれている大人たちに「ありがとう」と言いたい。そして将来は、私も誰かのワクワクを支えられる大人になりたいと思った。いつか自分が税金を払う立場になった時、そのお金がちゃんと誰かの未来に繋がることを願いながら、誇りを持って払っていきたい。